

【参 考】

1 クビアカツヤカミキリの特徴

現在、全国各地で侵入が確認されているクビアカツヤカミキリは、人体に害はない昆虫ですが、サクラやモモなどの樹木の中に入り込み、木の内部を食い荒らすことで、農業被害や倒木などの被害を発生させます。

- 黒い体に赤い首、体長は2.5～4 cm
- 大変繁殖力が強く、成虫は5月末から8月に活動し、樹皮に1000個近くの卵を産みます。
- 幼虫は、樹木の内部を食い荒らし、フラス（木くずと幼虫が出す排出するフンが混ざったもの）を大量に出しながら成長します。このため、食害が進むと樹木が枯死し、ウメ・モモなどの果樹園では、農業被害が発生するおそれ、公園や街路樹等では倒木などの被害が発生するおそれが懸念されています。

※ 兵庫県に隣接する大阪府及び徳島県では2015年から侵入が確認され、その後、2019年に奈良県及び和歌山県での侵入が確認されています。

2 本県の状況（昨年度の対応等）

同カミキリについては、昨年度初めて明石市内で成虫が発見され、その後、神戸市、芦屋市で相次いでフラス等が発見されています。

被害木については、その被害程度に応じ伐採やネット巻き、薬剤注入などの手段により、すべて対応済みです。

クビアカツヤカミキリ被害木への対応状況（R5.5.31現在）

（単位：本）

市町名	発生場所	発生木	被害木数 (フラス発生木)			処理済		未処理
			R4	R5	計	伐採	薬剤処理等	
明石市	石ヶ谷公園	サクラ	21	0	21	6	15	0
芦屋市	茶屋さくら通り	サクラ	4	0	4	1	3	0
	公光公園	サクラ	2	0	2	1	1	0
	川西町	サクラ	1	0	1	0	1	0
神戸市	北区（民地）	サクラ	4	0	4	0	4	0
	西区（民地）	サクラ	0	1	1	0	1	0
計			32	1	33	8	25	0